

ヨーロッパの貴族たちが愛したチェンバロの雅な調べを、マエストロ 故スコット・ロス氏の流れを受け継ぐ 曾根麻矢子の演奏でお楽しみください。

気軽に
クラシック

バロックの調べ
曾根 麻矢子
チェンバロ名曲コンサート

6.3

土

開場 14:30

開演 15:00

(公演時間/約60分)



※未就学児童のご入場はお断りさせていただきます。
※無料託児所を設けますので公演日の1週間前までにお申込下さい。

佐賀市文化会館 中ホール

チケット 全席指定 1,000円 CREDIT

(当日1,200円) ※消費税込

プレイガイド

佐賀市文化会館
佐賀玉屋、モラージュ佐賀
アートミュージック、小川楽器佐賀店
ローソンチケット 各スポット及び (Lコード: 83570)
チケットぴあ 各スポット及び (Pコード: 324-108)
セブンチケット <http://7ticket.jp>

Program

- ♪ヘンデル: 組曲第5番 ホ長調 HWV430 《調子のよい鍛冶屋》
- ♪スカルラッチェ: ソナタ ホ長調 K.380
- ♪スカルラッチェ: ソナタ 八長調 K.159
- ♪J.S.バッハ: フランス組曲第1番 二短調 BWV812
- ♪ラモー: 一つ目巨人
- ♪ラモー: ミューズの語らい
- ♪ソレル: ファンダンゴ

※曲目は予定です。予告なく変更する場合がございます。

©Shunichi Atsumi

■主催/公益財団法人佐賀市文化振興財団 ■後援/佐賀市教育委員会

◎お問合せ/佐賀市文化会館 TEL 0952-32-3000 佐賀市文化会館ホームページ <http://www.shinpo.jp/>

2017年度 オフィシャルパートナーとして、佐賀市文化振興財団の文化事業への協賛を通し地域文化の振興をサポートしています。



気軽に
クラシック

バロックの調べ 曾根 麻矢子

チェンバロ名曲コンサート

曾根麻矢子(チェンバロ) Mayako Sone, Cembalo

東京生まれ。桐朋学園大学附属「子供のための音楽教室」を経て、桐朋学園大学附属高校ピアノ科卒業。ピアノを寺西昭子、チェンバロを鍋島元子の各氏に師事。高校在学中にチェンバロと出会い1983年より通奏低音奏者としての活動を開始。

1986年ブルージュ国際チェンバロ・コンクールに入賞。その後、渡欧を重ねて同コンクールの審査員であった故スコット・ロスに指導を受け、1990年より正式にパリに拠点を移す。故スコット・ロスの夭逝後、エラート・レーベル(フランス)の名プロデューサー ミシェル・ガルサンにスコット・ロスの衣鉢を継ぐ奏者と認められ、1991年にはエラート・レーベル初の日本人アーティストとしてCDデビューを果たす。

1992年以降、イスラエル室内オーケストラの専属チェンバロ奏者としての演奏旅行、フランス、イタリア等のフェスティバル参加など国際的に活躍している。また、サンチャゴ・サンペレ(現代舞踊家)とのコラボレーションをパリと東京で開催し、その意欲的内容が好評を博した。2006年にはラジオ・フランス(フランス国営放送)で3時間に及ぶ曾根の特集が組まれている。日本国内でもリサイタル、室内楽と積極的に活動し、その活動は常に注目を集めている。さらに、音楽活動とともにテレビ、ラジオへの出演、雑誌「DIME」でのエッセイ連載、「いきなりパリジェンヌ」(小学館刊)の刊行など多才ぶりを見せている。

録音活動も活発に行い、デビューCD「J.S.バッハ:イギリス組曲」リリース以後、「J.S.バッハ:ゴルトベルク変奏曲」、「情熱のファンダンゴ」、「シネマ・チェンバロ」、「ジュ・レーム」、「J.S.バッハ:フランス組曲」、「J.S.バッハ:トッカータ」、「ラティーナ」、「シャコンヌ」と定期的にCDをリリースし続けている。とりわけ、「情熱のファンダンゴ」は、故スコット・ロスの偉業「スカラルラッティ:ソナタ大全集」の遺志を継ぐ追加録音として大きな話題を集めた。

2003年より09年まで東京・浜離宮朝日ホールにて、6年間計12回にわたるJ.S.バッハ連続演奏会を行い、並行して「イギリス組曲」、「フランス組曲」の各全曲盤と「イタリア協奏曲、フランス風序曲」、「平均律クラヴィア曲集第1巻」(第20回ミュージック・ペンクラブ音楽賞オーディオ部門最優秀録音賞受賞)をエイベックス・クラシックスよりリリース。

2010年から14年まで東京・上野学園エオリアンホールにて、全12回のクーブランとラモーのチェンバロ作品の全曲演奏会を行い、好評を博した。

現在、演奏活動の傍ら、鬼オスキップ・センペの元で研鑽を積んでいる。

1996年「第6回出光音楽賞」をチェンバロ奏者として初めて受賞。1997年飛騨古川音楽大賞奨励賞を受賞。2011年よりスタートした「チェンバロ・フェスティバルin東京」音楽監督。上野学園大学特任教授。

曾根麻矢子オフィシャル・ウェブサイト <http://mayakosone.com/>



©Shunichi Atsumi

～チェンバロとは～

チェンバロは15世紀以前から使われていた鍵盤楽器で、ドイツやイタリアではチェンバロ、フランスではクラヴサン、イギリスではハープシコードと国によって名称は様々です。

外見はピアノに似ていますが、音の出し方が大きく違います。ピアノが弦をハンマーで「たたく」のに対し、チェンバロは鳥の羽(現在ではプラスチックを使用する場合もあります。)を削って作った爪で弦を「ひっかく」のです。

チェンバロの音を出す仕組みを少し説明しましょう。まず、鍵盤を押すと、鍵の向こう端に垂直に立つジャック(木製の打弦つち槌)が飛び上がり、その側面に突き出た爪(鳥の羽軸が使われることが多い。)が下から弦をひっかきます。この点が、ハンマーで弦を打って音を出すピアノとは大きく異なり、演奏には全く別種のタッチを必要とされます。

さらにピアノと異なる点は、1つの鍵について数種の音質の異なる弦が対応しているため、ペダルまたはキーの操作によって、音域や音色を変えることができることです。

バロック音楽にとってなくてはならない楽器 チェンバロも、ピアノの発展と普及に押され、ほぼ1世紀の間忘れられた楽器となっていましたが、19世紀末から復興の試みが始まり、ワグネル・ランドフスカからの尽力で広く愛好されるようになりました。

今回のリサイタルでは、佐賀県唐津市在住の中村壮一氏の手によるフレンチタイプ・チェンバロを使用します。



チェンバロ(フレンチタイプ) 中村壮一氏製作